

令和7年度 学校評価自己評価表 【中間】
【学校教育目標】 ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生き抜く児童の育成 一元気 本気で 最後まで――

三次市立作木小学校

ふるさとに学びたくましく生きる子どもの育成 ―― 元氣 本気で 最後まで――	中期 経営目標	短期 経営目標	目標実現の ための方策	評価指標	目標 値 (%)	達成 値 (%)	達成 度 (%)	評 価	自己評価	関係者 評価	ご意見	改善策
	確かな学力 の定着	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	・複式指導の充実 ・算数科の授業づくり ・ICT 活用	・「主体的な学び」「協働的な学び」の視点で児童アンケートを行った肯定的回答の割合	80	87.8	109.7	5	今年度の研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する複式の学習指導―協働的な学びのある授業づくりを通して―」に向けて全教職員で研修を行い、方向性を統一した。児童が学習リーダーを中心に、対話を通して主体的・協働的に学ぶことができる見守り型の複式授業を創意工夫している。取組みを継続することで、深い学びの実現と確かな学力の定着につなげていきたい。	A	・わからないときは質問したり、友達と相談しあったりする児童が増えているのは複式授業研修の成果だと思います。 ・複式授業ならではの生徒の自発性に期待します。 ・子どもの集中力をいかにきらず保てるかが課題となってくると感じた。	・今年度の研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する複式の学習指導―協働的な学びのある授業づくりを通して―」に向けて全教職員で研修を行い、方向性を統一ながら複式授業の創意工夫に取り組んでいる。この取組みをさらに深化させ、児童が、学習リーダーを中心に、対話を通して主体的・協働的に学んでいくことができる自立した学習集団をめざし、学力向上につなげていく。また、市教委指導主事に今後の取組みや研究の方向性について指導を受け取り組んでいくことで「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」を図っていく。
		基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・読書活動の充実 ・帯学習の実施（漢字・読解・計算の力の定着）	・単元末テスト（国語・算数）80点以上の児童の割合 ・三次市学力到達度検査で全国平均を上回る児童の割合	70	57.1	81.6	4	80 点以上の児童の割合は、国語 53.6%算数 60.7%だった。目標値に到達していないが、基礎的・基本的な知識・技能の向上が見られる児童がいる。後期も帯学習（学び直し）や読書活動、音読発表、自主学習ノートの継続を中心に基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に取り組みたい。	A	・日々の地道な積み上げが三次市学力と立つ度検査にもつながることを期待します。 ・達成度は80を超えているが数値に満足してはいけな い。 ・学習意欲を保てるよう家庭・学校の両方の力が必要であると思う。 ・達成値が低いのが気になります。複式だから学力が低いと言われないように、学習の習得が出来ているか、しっかり押さえてほしい。	・後期では、児童にとって分かる複式授業の創造に努めるとともに、常清タイムやドリルタイムでの学び直し、読書、音読、自主学習などを徹底することで「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」に生かしていく。
	豊かで健やかな心身の育成	自己肯定感の向上	・特別活動の充実 ・教育相談の実施 ・日常的な評価の工夫	・児童アンケート、i-Check における「自己肯定感」「思いを伝える」「お互いを認め合う」項目の肯定的回答	80	80.0	100.0	5	i-Check における3項目の肯定的回答の児童は8割を超えた。今後も学校行事や児童会活動での目標をもって取り組んでいきたい。一方、自己肯定が低く友だちとのトラブルが続く児童も数名おり、その指導や場などの改善の必要がある。	A	・集団作りがうまくできているから「思いを伝える」ことのできる児童が多いのだと思います。自己肯定感が低い原因は様々あるだろうと思いますが、自分のことを認められるきっかけが何か一つでもあるとよいですね。 ・自己肯定や友達との関係でトラブルになる児童へ改善の必要ありとあるが、どのような改善策を考えているか。すでに改善策を考え取り組んでいるか、対象児童の今年1年が充実したものにならない。	・今後も、学校行事や児童会活動等で、児童自身がめあてをもって取り組んでいける教育活動を設定していく。 ・自分の心や友だちの思いなどを見つめることができる指導や場などの改善を図っていく。 ・心理的安全性のある学校・学級となるよう、言葉遣いや相手の話を聞く態度などの指導を徹底する
		基礎体力の向上	・体育科授業の改善 ・外遊びの奨励 ・業間体育の実施	・新体力テスト結果のAB率	60	43.3	72	3	AB 率は43.3%であった。課題が大きかったのは、長座体前屈、上体起こしであった。2学期の体力向上の取り組みとして、体育朝会の中に、課題のある運動能力の向上を図る運動を取り入れる。マラソン大会等を企画して、目標をもちながら体力の向上を図れるような場を設定していく。	A	・マラソン大会も地域へご案内いただくと児童のやる気も高まるかも。応援したいです。 ・目標値が低い。これは学校だけで解決することではないので家庭への啓発を続けてください。 ・スクールバスのため歩くことも少ないし、休日 も友達と遊ぶことも難しい。普段から体を動かす機会がないので、持久力が弱いと思う。 ・低位な傾向は学校だけに責任はないと思うが、改善は学力向上につながると思う。しっかり取り組んでほしい。	・2学期の体育朝会の中に、課題の大きい項目の力を向上させる運動を取り入れ体力の向上を図る。 ・2学期にはマラソン大会を実施して、体育朝会やマラソン大会の練習を通して持久力の向上を図る。
			・生活リズムの改善（小中連携・家庭啓発）	・就寝時刻の目安を守っている児童の割合 ・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合	70	87	124	5	保護者への啓発を継続するとともに、児童にも「早寝」と「心身の健康」の関連性について、保健指導の実施や掲示物などを通して指導していく。 保護者への啓発を継続するとともに、児童にも計画的に「長時間のメディア使用」と「心身の健康」の関連性について指導していく。	A	・就寝時刻の目安を守る児童が87%もいるのは素晴らしいですね。 ・メディアに関するルールについてはこの評価指標では守っているかどうか分からないのでCにしました。 ・引き続き、児童、保護者への啓発をお願いしたい。	・目標値を達成することができた。引き続き、児童に対して生活リズムの定着、特に「就寝・起床時刻の固定」を図るため、保健だよりや掲示を活用し、積極的に情報発信する。 ・スタディウィークや生活実態アンケートを活用し、実態を把握するとともに、結果を職員へ周知し、学級指導、保健指導に活かす。
	愛され信頼される地域とともにある学校	積極的な情報発信	・学校・学級・保健便り等の計画的な発行 ・HP更新	・保護者の学校評価アンケートにおける学校満足度に関する項目の肯定的評価の割合	85	96.4	112	5	目標を上回る評価であった。学校ホームページの更新がタイムリーにできていないことが反省であるが、学校だよりは今年度夏休み号も入れて、保護者アンケートの結果を公表した。今後もアンケート結果や保護者の意見を反映した学校だよりに取り組んでいく。	A	・文章で伝わらない部分のところはやはり直接話をして、声や気持ちを届けることも一番だと思う。 ・保護者の学校への信頼が上がっていることがうかがわれる。 ・肯定的評価が85%以上なら目標値を挙げて取り組むのはどうか。	・学校での取り組みや行事がタイムリーに更新できるようにしていく。アンケート評価を開示し、広く学校の取組や評価を知らせ、学校への意見を聞かせていただきながら、今後の方策をたてていく PDCA サイクルを確立していく。
		作木ふるさと学習の充実	・オリジナルカリキュラムの評価改善	・児童アンケートで「作木のよさを知り大切に思う」児童の割合	90	92.3	102	5	地域探検を通じて、児童が自ら地域の自然や歴史に目を向け、地域資源への理解を深めることができた。また、ゲストティーチャーとして地域の方々をお招きし、地域の伝統、地域に伝わる知恵などを学ぶことで、子どもたちにとって地域が身近で大切な存在であるという意識が育まれた。今後も、地域と連携した学習をさらに充実させていく。	A	・自然に恵まれていること、地域が暖かいこと、伝統文化が身近にあることを大切に思う気持ちを持ってほしい。 ・昨年より達成率が大きく上昇している。新しい取り組みの成果が表れている。 ・大人になっても地域の良さを 知り大切に思う気持ちを大切にしてい てほしい。 ・夏の討論会に出席した児童（5・6年）から下の学年へ伝達をして、自分たちが できることなどを見出す作業を取り入 れてみてはどうか。	・新コアカリキュラムを策定し、地域の協力や、地域の魅力を盛り込んだ「作木ふるさと学習」の創造に取り組む。授業実践をもとに、授業内容に改善点を加えながら、よりよい活動になるようにしていく。
		子供と向き合う時間の確保	・業務の精選と効率化 ・一斉退校日の設定 ・時間外在校時間縮減 ・職員の意識改革	・時間外在校時間の月平均4.5時間以内の職員の割合 ・業績評価（自己申告）の達成度平均3.5以上	80	88	110	5	チャット機能を使った伝達、早め早めのスケジュール周知など、見通しをもって業務に取り組めるようにしている。	A	・45時間でも多いと思います。教員の負担が社会的問題になっています。可能な限り軽減を。 ・遅くまで残ることがいい事とはできるだけ時間内の中で協力し合いながら業務をしてもらいたい。 ・早めのスケジュール周知がとても効果が出ている。	・各部会や企画委員会の定例化、会議の時間を設定して行うように引き続き取り組む。 ・分掌事務が特定の人に集中しないように、分担化を図っていく。

5	100%以上	目標を十分達成している。	4	80%～100%未満	目標を概ね達成している。
3	60%～80%未満	目標をやや下回っている。	2	40%～60%未満	目標を下回っている。1 40%未満

A 自己評価は適正 B 自己評価は適正でない C 判断できない